



TOYAMA
Prefectural
University

富山県立大学ニュース

平成26年10月発行
富山県立大学学生委員会

No.105

ダ・ヴィンチ祭
(8月2日)



製作教室
(オリーブオイルからセッケンを作ろう)



小学生クイズ大会



製作教室
(ミニペットボトルロケットを作ろう!)

CONTENTS

- News Digest
- 研究紹介
- Campus News など

来年4月から富山県立大学の運営形態が変わります

平成27年4月から、富山県立大学の運営主体が、「富山県」から富山県が設立する「公立大学法人富山県立大学」に変わります。

運営面での機動性、透明性を高めることにより、これまで以上に、教育、研究、地域貢献を充実・強化し、県民や地域社会の期待に応える魅力ある大学づくりを進めます。

※「公立大学法人」とは：地方独立行政法人法に基づき、地方公共団体が設立することができる法人のうち、特に公立大学を設置・管理するため設立する法人をいいます。

全国の公立大学では、約8割が公立大学法人による大学運営に移行しています。

<参考>法人化についてのQ&A

Q1. 大学の名称はどうなるの？

A1. 「富山県立大学」のまま、変わりません。

Q2. 授与される学位や取得できる資格・免許はどうなるの？

A2. 法人化しても授与される学位や取得できる資格は変わりません。

Q3. 教育内容はどうか？

A3. 学生を大きく伸ばし、地域社会で活躍できる有為な人材を育成するため、昨年度文部科学省から採択を受けた「地(知)の拠点整備事業(COC事業)」を活用し地域との対話や交流を重視した教育研究はもとより、グローバル化(国際化)に対応した教育環境づくりを進めるなど、より質の高い教育を行います。

Q4. 授業料はどうなるの？

A4. 授業料の金額については、従来どおり国立大学に準拠する予定です。納付方法については、利便性の向上を図るため、口座振替への変更を予定しています。

News Digest

サークルリーダー研修会

7月5日(土)に富山県広域消防防災センター(四季防災館)にて、サークルリーダー研修会を開催しました。この研修会は、サークルのリーダーを対象に、サークル活動の活性化やリーダーとしての資質向上等に関する研修を行うもので、今年で23回目となります。今回は26サークルから45名の学生が参加しました。

午前中は、サークルの適切な運営のため、助成金や施設使用等についての説明や意見交換を行いました。また、文化系サークル・体育系サークル別に計8つのグループに分かれ、サークル活動を活性化するための企画について討論会を行い、様々なアイデアが出されました。

午後からは、防災体験・救命救急体験を行い、リーダーとしての防災意識の向上及び万が一の事態に備えた対処法を学ぶなど、中身の濃い充実した研修会になりました。



高校生向け科学技術体験講座

7月上旬から、県内の5つの高校と連携し、高校生向け科学技術体験講座を実施しています。高校生のみなさんに大学での講義や実験を体験してもらうことで、科学や技術への興味・関心を高めることが目的です。

今年度は、高岡高校1年生(7/8)、氷見高校2年生(7/14)、南砺福野高校2年生(8/18)、大門高校2年生(8/25)のみなさんが、本学教員による講義を受講しました。今後、富山東高校のみなさんも受講予定です。

高校の学習よりも専門的な内容は、高校生の皆さんには難しく感じられた部分もあったようですが、「おもしろかった」、「将来このような道に進んで研究するのもいいなと思った」などの感想が寄せられました。

平成26年度前期 トピックゼミ地域協働授業成果発表会&地域協働研究会COCOSの発足

平成25年度文部科学省「地(知)の拠点整備事業(COC事業)」の採択を受け、地域関係者との対話を通じた授業における学生の取り組みを知っていただくため、7月18日(金)に本学にて「トピックゼミ地域協働授業成果発表会」を開催しました。発表会では、植物を見分けるための小学生向けアプリケーションの開発など地域の課題について様々な提言があり、参加した地域関係者の方からも質問が挙がるなど活気にあふれる場となりました。

また今年4月には、地域が抱えている問題を地域の方々との対話の中で探り出し、解決に向けて行動することを目的に、学生団体「地域協働研究会COCOS」が発足しました。今後、工学を学ぶ学生の視点から、積極的に地域に働きかけていく予定です。



大学コンソーシアム富山 大学等リーダー研修会

7月19日(土)、20日(日)の2日間、県内の各大学等の学生を対象に、大学コンソーシアム富山による「大学等リーダー研修会」が「いこいの村磯波風」で開催されました。本学からは7名の学生が参加しました。コスモ生涯学習アカデミーを主宰する 尾山 敦子氏 からは「コミュニケーションの基本を知る」と題して講演があり、(株)ジェット経営コンサルタント 高田 忠直氏 からは、リーダーに求められる力を養うための講義がありました。「よい話し合いができた」「有意義な時間を過ごせた」といった意見が寄せられました。



エコツアー I

立山の大自然に触れながら、地球温暖化や外来植物の増加などが自然や生態系に及ぼす影響を学び、環境に関する問題意識や倫理観を修得することを目的とする「エコツアー I」が7月26日(土)に実施されました。

今回は昨年に引き続き、ナチュラリスト(自然解説員)の指導の下、参加した工学部一年次生ら247名による外来植物除去活動を弥陀ヶ原付近で実施しました。午前中の約1時間で、12種類、約14,000株の外来植物を除去しました。

午後からは快晴の室堂での自然散策を行い、人と自然との関わりについて学ぶ良い機会となりました。

中高生「工学の魅力」発見ツアー

7月28日(月)に、中学生・高校生のみなさんに工学の面白さ・魅力を感じてもらおうバスツアーを実施し、中高生とその保護者、総勢58名の方に参加いただきました。

午前中は、「工学の魅力」についての講義、環境工学科4年 道谷くんによる学生生活紹介、ダヴィンチの機械模型体験、研究室見学など盛りだくさんのプログラムで県立大学を体験しました。午後からは、希望のコースに分かれて、県内のものでづくり企業を見学させていただきました。富山が世界に誇るものでづくりの技術を目の当たりにし、参加者からは、「身近なところで国内トップシェアの企業があり驚いた」、「工学という言葉が身近に感じられるようになった」などの感想が寄せられました。



オープンキャンパス

8月2日(土)に、今年度2回目となるオープンキャンパスを開催しました。県内外から281名の方の参加があり、なかには遠く北海道や秋田からもお越しいただきました。模擬講義や研究室見学により、大学の最先端の研究やその設備に触れ、大学での学びへの意欲が高まったようです。プログラムの最後に設けた個別相談コーナーでは、希望する学科の教員に積極的に質問・相談する姿も見られました。

また、当日は、受付や誘導、研究室見学での説明など、たくさんの学生が運営に協力してくれました。大学生の頼もしい姿に、参加者のみなさんから感心の声が多く聞かれました。

「富山県立大学同窓会総会・懇親会」

平成26年度同窓会総会・懇親会が8月15日(金)に開催されました。今回は工学部1、2期生、短大部1期生を中心に卒業生が自ら実行委員となり会場、内容などを取りまとめた同窓会となりました。卒業してから約20年となる節目で自らが活動できる余裕が出てきたこともあり参加人数は卒業生・教職員を含め約100名あまりとまれにみる大人数となりました。年明けから、実行委員会を立ち上げ参加人数の取り込み、会場設定など各自仕事の合間を縫って頂き打ち合わせを重ねました。先輩方の力強い実行力と責任感の元、無事大成功を収めることが出来本当に感謝しております。これからも素敵な同窓生の方々にお逢いできると思うと楽しみです。



大連企業実務研修

8月23日(土)から9月6日(土)までの16日間、富山県立大学生3名を含む県内の大学生全9名が中国大連での企業実務研修に参加しました。この研修は、富山県と大連YKKジッパー社が共同で実施しているものです。

「中国での企業活動を体験し自己成長への機会を与える」というテーマのもと、学生は、YKKでの実務研修に参加するだけでなく、中国に進出する様々な日本企業による講演を受講することで、今後のキャリア形成を考える機会を得るとともに、現地の中国人学生や学生一人ひとりに配置されるYKK中国人社員チューターとの交流を通して、中国人や中国文化への理解を深めました。

学生の研修後レポートでは、「今後社会人として働くなかで大切なことを学ぶことができた」「国際社会で成功するために必要なものを知ることができた」などの感想がありました。

保護者向け就職支援セミナー

就職活動に関する理解やわが子への支援意識を高めることを目的とし、8月30日(土)に桑山ビル大会議室（名古屋駅前）において、8月31日(日)に本学大講義室において「保護者向け就職支援セミナー」を開催しました。本学の就職・進学状況や就職支援体制、保護者の方ができる支援等について説明の後、学生による就活体験談発表を行いました。2日間で203名が参加され、わが子の就職活動を考える保護者の皆様が熱心に耳を傾けておられました。



瀋陽化工大学留学

9月2日(火)から20日(土)までの20日間、富山県立大学生9名が中国・瀋陽化工大学に交換留学生として派遣されました。この留学は、瀋陽化工大学と締結した「単位互換に基づく学生交流協定」に基づいて行われ、今年で4度目の派遣でこれまで合計36名が同学に留学しました。

留学生は、集中講義で「初級中国語」「中国事情」の2科目の講義を受け、瀋陽市内や上海の視察も行いました。留学中は、留学生寮で暮らしながら中国人チューターや学生や寮の他国の学生と共に過ごし、中国に対する理解を深めるとともに、日中間の友情を築きました。学生はこの留学の参加により、国際的な視野を磨く濃厚な夏季休暇中の3週間になったことと思います。

本学教員等の受賞について

生物工学科 浅野 泰久 教授

Biocat Award 2014

International Congress on Biocatalysis (Science部門) H26.9.2受賞

<受賞内容>

Biocat Award 2014 in recognition of his outstanding achievements in biocatalysis

この賞は、2004年以来、生体触媒の分野で最も優れた業績を称え、Biocat国際会議にて授与されます。"Science", "Life time achievement", "Industry" の3部門からなり、いずれもバイオテクノロジーにおいて最も名声の高い賞の一つです。今回、日本人初の受賞となります。

<研究の概要等>

種々の新しい酵素反応の発見により、食品、化学、製薬などの産業分野における酵素の産業利用に貢献しました。



環境工学科 九里 徳泰 教授、田開 寛太郎さん(博士前期課程環境工学専攻2年)他3名(学外)

日本環境共生学会 平成26年度日本環境共生学会学会賞(論文賞) H26.9.27受賞

受賞論文「愛知県社会人向け環境リーダー育成事業あいち環境塾の評価と課題」

<研究の概要等>

愛知県がエコタウンプランの中核事業として位置付けている環境リーダー育成事業のあいち環境塾は平成26年度で開塾7年目を迎え、卒業生が約100名を数えています。本研究では、卒業生への質問紙調査を実施し、卒業後の活動実態を分析することによって同塾の効果を評価し、社会人向け環境教育の課題を明らかにします。分析は、調査回答に対してテキスト分析を実施するとともに、トピシシ勧告の5項目を環境教育評価指標とし統計学的検定を実施しました。その結果、個々の塾生における環境に対する意識や能力に対しては教育効果がありましたが、環境リーダーとして環境教育の実践へと動かすことが限定的にしかできませんでした。よって本塾で学んだ塾生が本業や地域社会に戻ったとき、環境問題の解決に向けて積極的に関与できるような教育開発、場の創出が求められます。



本学学生等の受賞について

本学学生が次のとおり各学会賞等を受賞しました。(学年は受賞時)

受賞者	学科等	学会賞名	受賞年月	指導教員
丸山 紘史、 打越 大成、 鍋谷 俊輔、 吉村 梓、 岩松 竜也、 川端麻友美、 山岸 直樹	チーム名「ユビ研」 (情報システム工学科 4年生、情報システム 工学専攻 博士前期課 程1年、2年)	情報処理学会 (CDS/MBL共催) スマートフォンアプリ コンテスト 優秀アプリケーション賞	2014年8月	准教授 岩本 健嗣
杉本 大樹	知能デザイン工学専攻 博士前期課程2年	FIT2014第13回情報科学技術フォーラム FIT奨励賞	2014年9月	教授 中村 清実
杉本 大樹	知能デザイン工学専攻 博士前期課程2年	LE2014ライフエンジニアリング部門シンポジウム2014 SICE北陸支部学生奨励賞	2014年9月	教授 中村 清実
米島 伸	環境工学専攻 博士前期課程2年	第20回日本環境毒性学会研究発表会 奨励賞(ポスター)	2014年9月	講師 坂本 正樹

研究 紹介

人と共存する知的なロボットの研究

知能デザイン工学科

講師 増田 寛之

【人と共存するロボット】

近年、様々なロボットが注目を浴びており、お掃除ロボットなど私たちの身の回りで活躍するロボットも増えてきています。ロボットは様々なセンサを搭載しており、自分で周りの状況を認識、判断する事で様々な行動をすることができます。ロボットは何でもできると思っているかも知れませんが、実は人のように状況に応じて適切に動くことは難しいのが現状です。

なぜなら、私たちの身の回りの空間は、常に状況が変化しているからです。工場のようにいつも同じような空間であれば、ロボットは人間以上の能力を発揮しますが、ロボット単体では計測できる情報が限られるため、部屋の中で起こる様々な状況を認識し、対応する事は困難なのです。

人と共存するロボットを実現するためには、部屋の中で起こる状況を認識し、適切な行動をしなければなりません。そこで、私たちの研究室ではロボット・人・環境（部屋の中など周囲の情報）を統合した、統合ロボットシステムの研究を行っています。統合ロボットシステムを応用した研究事例として、片付けを対象としたサービスロボットや人に行動を促すコミュニケーションロボットの研究・開発を行っています。

【片付けサービスロボットシステム】

研究中の片付けロボットシステムは、図1に示すように、人から声や指差しなどの自然な指示を認識する人型ロボット、片付けのための移動型ロボットアーム、部屋に人や物の動きを測る様々なセンサを設置しています。これらの情報を統合して、食器の位置や形状、食べ残しなどを認識し、自動でゴミ箱や棚、冷蔵庫に片付けをすることができます。このとき、人が食事を終わったタイミングなどを推定し、ロボットが自発的に片付けをする等、気の利いたロボットの開発を目指しています。さらに、3次元で計測可能なセンサを用い、人の視知覚の仕組みをロボットに組み込むことでロボットがデータを持っていない、初めて見る物体なども認識して片付ける研究も行っています。

【コミュニケーションロボットシステム】

コミュニケーションロボットは、図2に示す小型の人型ロボット「バルロ」を用いて、人と会話したりボディランゲージでコミュニケーションをしたりします。ここでも、部屋中に設置した様々なセンサの情報を統合して、人の行動を詳細に計測し、人の異常状態を通報したり、集中が切れたタイミングで体操を促したりするための知的学習制御の研究を行っています。さらなる応用事例として、インターネットから情報を取得して、様々なイベントへの参加を促すなど、高齢者の孤独感を緩和する役割などが期待されています。

【今後の展望】

統合ロボットシステム化技術は、近年話題となっているスマートハウスやスマートタウンに必要な技術です。この中にロボットが入り込むことで、将来私たちの近くで友達のように接するロボットがいるであろうと考えています。

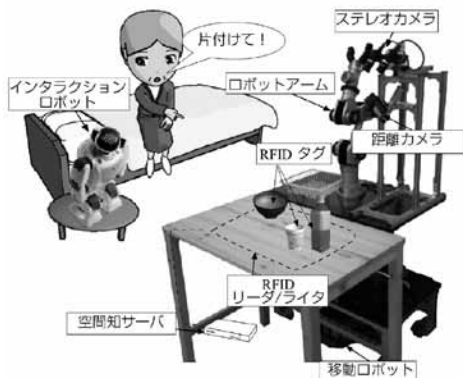


図1 片付けサービスロボットシステム

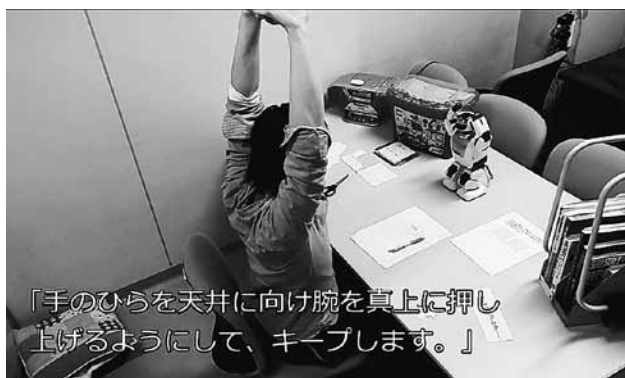


図2 「バルロ」によるインタラクション

研究 紹介

高次脳機能障がい者のための 自動車運転技能評価システムの構築

情報システム工学科

教授 鳥山 朋二
講師 浦島 智
講師 中村 正樹

脳卒中や脳腫瘍、頭部外傷などにより脳の一部に損傷を受け、注意障がいや記憶障がいなどの欠損症状、精神症状、行動異常などを呈するようになった状態を高次脳機能障がいと呼びます。高次脳機能障がいは、治療によって、ゆるやかではありますが、その症状の回復が見込まれます。しかし、患者の障がいの程度によっては、その治療過程における車の運転が危険なことがあります。身体機能障がいや認知症などの場合には免許の取り消しや停止などの措置を取ることのできる体制が整備されていますが、高次脳機能障がいの場合には、現状、運転可否の判断ガイドラインが未整備であり、医師であっても実質的に根拠ある判断が困難です。運転が不適正な患者に対して適性と誤判断して事故を起こしてしまう危険性や、逆に運転が適正な患者に対して不適正と誤判断して患者の社会参画の機会を減らしてしまう危険性を考慮すると、運転適性の判断に二の足を踏むこととなります。

この問題に対して、医療機関では認知障がいのスクリーニング検査として用いられるミニメンタルステート検査(MMSE)や抹消検査を参考にして高次脳機能を評価したり、運転シミュレータを用いた疑似運転で人の飛び出しなどの不測事態に対する反応速度や運転技術を参考にしたりすることで自動車運転適性を判断しています。しかしスクリーニング検査は運転技能と結び付けて行えるものではないため、運転技能を評価する基準となり得るかについては疑問が残ります。また、運転シミュレータは、アクセルやブレーキなどの車の挙動に影響するデバイスの操作に関わるデータは取得できますが、車の挙動に影響を与えない安全運転確認動作などのデータを取得するのは困難です。

我々はこの問題を解決すべく、県内の医療機関、運転免許センターと共同で、実車による高次脳機能障がい者向け運転技能評価システムの構築を目指した研究を進めています。これまで、高次脳機能障がい者十数名に運転免許試験官同乗のもと普段運転している車で技能試験コースを運転してもらい、運転者が装着したセンサを通してデータを取得する実験を実施しました。こうして得られたデータを分析することで、左右確認やアクセル・ブレーキ操作などの安全な運転に必要な運転行動を抽出する手法を検討してきました。その結果、(1)車線変更時に行う目視確認・ウィンカー操作・ハンドル操作の順序、(2)高速走行からカーブに向けての計画的な減速、(3)T字交差点進入時の首振り確認動作の角度について、高次脳機能障がい者特有の危険な運転行動を検出できる見込みが得られています。

我々の研究室では、このような医療・福祉分野への応用を中心に、情報化社会において、人とシステムを結ぶ手段はいかにあるべきかを考え、人とシステムが滑らかに協調するため、利用者にとって便利かつ有益なシステムの開発を目指した研究を行っています。



運転者へのセンサ装着位置



実験の様子（後部座席から）

県大祭の開催

第25回富山県立大学大学祭「県大祭」が開催されます。今年のテーマは「県大祭に
来られたし」です。県大祭は、学生による実行委員会が主体となって企画運営しており、
大学公開の場にもなっています。ぜひご来場ください。

- ◆日 時：10月24日(金) 18時～21時(前夜祭)、10月25日(土)・26日(日) 10時～21時
- ◆会 場：富山県立大学キャンパス内
- ◆通常企画：模擬店出店、各サークル成果発表、プラネタリウム、クロスドレッサーコンテスト 等
- ◆特別企画：音楽ライブ 10月25日(土) 15時30分～ 入場無料!!
出演：きただにひろし、喜多修平、佐咲紗花
- ◆問合せ先：大学祭実行委員会 TEL：0766-56-7500(内線148)
ホームページ <http://www.pu-toyama.ac.jp/ST/top/new/index.html>
ツイッターアカウント @TPU_gakuseikai

北陸三県大学学生交歓芸術祭

第64回北陸三県大学学生交歓芸術祭が開催されます。この芸術祭は、富山、石川、福井県内にある国公立の大学
及び短期大学17校の文科系サークルが集まり、吹奏楽、合唱、茶道など10部門で日頃の成果を発表する祭典です。

今年は石川県内が会場となっており、本学からは、コーラス部(合唱)、軽音楽部(軽音楽)、茶道部(茶道)が参加す
ることとなっています。開催日程は以下のとおりです。

部 門	期 日	会 場
放 送 劇	7月5日(土)、6日(日)	石川県青少年総合研修センターユースバルいしかわ(金沢市)
吹 奏 楽	11月2日(日)、3日(祝)	石川県立音楽堂(金沢市)、金沢歌劇座(金沢市)
管 弦 楽	11月22日(土)、23日(日)	コスモアイル羽咋(羽咋市)、羽咋すこやかセンター(羽咋市)
合 唱	10月11日(土)、12日(日)	金沢大学宝町キャンパス十全講堂(金沢市)
軽 音 楽	11月15日(土)	金沢Million City(金沢市)
邦 楽	10月25日(土)、26日(日)	金沢大学学生会館(金沢市)
美 術	6月21日(土)、9月15日(祝)	金沢大学学生会館(金沢市)
写 真	11月3日(祝)、8日(土)	金沢工業大学パフォーミングスタジオ(野々市市)
書 道	11月14日(金)、15日(土)、16日(日)	金沢大学学生会館(金沢市)
茶 道	9月14日(日)、15日(祝)	長久寺、松月寺、宝集寺(金沢市)

本学学生が「トビタテ！留学JAPAN日本代表プログラム」に採択

生物工学科3年 松村末利子さんが標記プログラムの第1期生に選抜されました。

<本人からのコメント>

書類・面接審査を通過し、全国から選出された323人の1人として、10月から1年間オランダに留学させていただきます。審査にあたりご指導・応援して下さった皆様、本当にありがとうございます。プランは、花文化の最先端であるオランダで、主に世界最大の花市場にある企業にインターンさせていただきながら花の品質管理・栽培から販売などを学びます。将来的にはグローバルで花流通を行い、日本を世界最高の生産性をもつ農業国にするとともに、アジアにおけるデファクトスタンダードを開発することに貢献します。

“トビタテ！留学JAPAN”とは官民協働で学生の留学に支給型の手厚い支援をして下さる国家プロジェクトです。他の支援制度と違い、自由なプランで留学できるのが特徴です。10月から2期生の応募が始まっています。日本代表として世界にトビタってみませんか？



SCHEDULE 平成26年度

		大 学 院	工 学 部
6 (木) 環境講演会	11月		21(金) 推薦入試
12(金) 産学官連携環境シンポジウム	12月	3 (水) 大学院入試	
		11(木) 進路ガイダンス	
		13(土) 学内合同業界研究会	
		19(金)AM、24(水)、25(木) 特別授業	
	1月	15(木)、16(金)AM、20(火)、21(水) 特別授業	
		26(月) 大学院入試	23(金) 私費外国人留学生入試
	2月	4 (水)~13(金) 授業又は後期試験	
		13(金) 後期授業終了	
		中旬 修士論文審査発表会	中旬 卒業研究発表会
			25(水) 一般入試(前期日程)

CAMPUS NOTE

卓球部



今年の6月に卓球部は発足しました。現在は15人で毎週火曜日に活動を行っています。初心者や経験者を問わずみんなで教えあって楽しくかつ技術の向上ができるように練習を行っています。練習内容は基本練習を中心に、行いメンバー同士で練習試合もしています。また卓球の練習だけでなく大会出場を目標にして活動を行っています。しかし、発足してからまだ半年もたっていないためなかなか計画通りに活動できていません。今後は春、夏、秋の北信越大会やその他の試合出場やメンバーとの交流を深めるため飲み会を行う予定です。また交流を深めるとともに、みんなで意見を出し合いより多くの活動を行えるような部活になるようにしたいと思っています。卓球をやりたい方、卓球に興味がある方は初心者経験者問わず是非来てください。一緒に卓球をしましょう。

(部長 機械システム工学科2年 高原 司)

編集後記

食欲の秋、味覚の秋を迎えた。今回は、食道楽とマナーの話である。食を通した地域活性化イベント「とやまグルメランドinいみず」が9月20~21日、県立大学のすぐ近くの県民公園太閤山ランドで開催された。太閤山ランドは、第一回JAPAN EXPO(ジャパン エキスポ)が1992年に開催された広大な跡地に、県民公園として整備された。太閤山ランド、拙宅から歩いて5分程ということもあり、食道楽の小生は家内に誘われて、お昼頃に出かけた。好天に恵まれたこともあり、2日間で6万人以上が詰め掛け大賑わいで、人気のコーナーには長い行列ができていた。今年は3年目だそうで県内外から過去最多の45団体が出展していた。ステージイベントのあるふるさとパレス内では、今流行りの様々なゆるキャラやご当地アイドルなどが登場しイベントを盛り上げていた。人気の庄川アユ塩焼きコーナーにも長い行列ができていたが、子持ちアユ塩焼きをまず手に入れた。引き続き、能登牡蠣ぶっかけ丼、能登牛土手焼き丼、富山ブラックおでんなどを矢継早に手に入れた。ステージイベント会場内は大混雑であったが、空き席を見つけて食した。帰り際、火ね鶏炭火焼を匂いと読み名に誘われ購入。コリコリとおいしいが、硬いには年配の小生はまいった。なんと、火ね鶏とは、若鶏に対して親鶏をもじった当て字だそうである。若い人にはちょうどよい歯触りなのだろうと得心した。長野県の物販コーナーで、実に美味しい皮のまま食べられる種なし大粒ブドウ(ナガノパープルなど)を買って帰宅した。多くのコーナーに長い行列が出来ていたが、待つ間、誰一人として行列に割って入るような人はいなかった。日本人のマナーのよさは世界的にも有名だが、まさにその通りと思った次第である。

県立大学で開催された科学イベントのダ・ヴィンチ祭(8/2)も実に19年目を迎えた。今年の参加延べ人数は約7000人、大勢の小中高生や親御さんが訪れ大盛況であった。ひまわり迷路など出店数54、出店協力者370名(うち学生290名)と多くの学生の協力を得て、成功裡に終わった。人気のイベントには長い行列が出来ていたが、順番をきちっと守り、割って入るような方はいなかった。最近、学生のマナー違反がニュースや話題になったりするが、本学ではそういったことはまず無い。例えば、学内駐車場、教職員用と学生用は立て看板で表示されているくらいだが、教職員用に駐車する学生はほとんど皆無である。学生たちはダ・ヴィンチ祭や大学祭、エコツアーなど数々のイベントを通じて、ルールやマナーの大切さ、そして、自然環境の大切さと学んでいると思う。(学生部長 中村 清実)



この用紙は資源保護のため、インキは植物油インキを使用しています。

再生紙を使用しています。